



© 美内すずえ/白泉社

特集

彩の国ファミリーシアター

音楽劇『**ガラスの仮面**』への挑戦

まなざし
【NINAGAWA 千の目】

振付家・演出家

(財)埼玉県芸術文化振興財団 芸術監督・演出家

天児牛大 × 蜷川幸雄

INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.16 Jul.-Aug.



03 ESSAY

さいたまゴールド・シアター 第2回公演
『95kgと97kgのあいだ』

苅部 直

いまわの際? 忌野清志郎のイメージが!



04 TOPIC

音楽劇

『ガラスの仮面』への挑戦

演劇知らずの世代をガラスの仮面で誘惑する!



08 TALK

公開対談 NINAGAWA 千の目 第14回

天児牛大× 蜷川幸雄

2年に1本のハイブリッド vs 1年に10本のターボ!



10 PLAY

彩の国
シェイクスピア・シリーズ
第20弾

『から騒ぎ』

～騒ぎ出す、等身大の若者たち!



12 DANCE

『Here to Here』

勅使川原三郎

インタビュー

光と身体を探究するトップ・アーティスト!



14 DANCE

ナチョ・ドウアト スペイン国立ダンスカンパニー 『ロミオとジュリエット』

好奇心と活力と直感のジュリエットの驚き!



16 MUSIC

新日本フィルハーモニー 交響楽団

気鋭の若手ゲッショルトが作曲家最晩年の名曲を指揮!



18 MUSIC

『メシアン・プロジェクト2008』

児玉 桃 インタビュー

新幹線に鳥のさえずりが洩れて!

20 EVENT SCHEDULE & TICKET INFORMATION

イベント・スケジュール 2008.7.15-9.30
前売りチケット発売情報(～9.15) 発売中公演情報

23 THEATER BRIDGE

イベント告知、募集など劇場からのご案内

24 Artist Diary 幸田弘子

『きもの姿で“語る”こと』
ゆるやかに着て読みほどこ源氏の世

表紙 彩の国ファミリーシアター 音楽劇 ガラスの仮面
ILLUSTRATION: ©美内すずえ/白泉社 ILLUSTRATION: 田中修一郎
編集: 横山雅美 デザイン: ATAMATOTE International INDEX コピー: BASON
©(財)埼玉芸術文化振興財団
Published on 15.JULY 2008 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation



さいたまゴールド・シアター 第2回公演 『95kgと97kgのあいだ』 5月30日公演より

苅部 直

大稽古場のがらんとした空間に、静かな、しかし限りなく重い笑い声が響く。「95kgと97kgのあいだ」(清水邦夫作)の中盤、高齢者からなるゴールド・シアター俳優陣の演じる「二群たち」が、架空の銃撃に倒れて見せたあと、地の底からわきあがるように立てた笑いである。人生の経験が身体にしみこませた、澱おのようなもの。それをゆっくりと解き放っているかのような迫力だった。

舞台の内容は、現代の若者劇団が「行列」の芝居を稽古しているところに、かつて一九六〇年代末という怒濤の時代に、同じ芝居を演じた「二群たち」が現われ、おたがいの動きが交錯する話である。年老いた者たちが口にする「想い出」は、政治とアングラ演劇の季節をこえ、さらにさかのぼって、原爆体験へ、太平洋戦争へと、歴史の導線をさかのぼってゆく。忘却の底に沈んでいた記憶が呼び起こされ、せりふとして漂う。

劇の末尾、激しい銃撃音の中で、若者と「二群たち」とが、手をとりあいながら逃げ去ってゆく姿は、今や、六〇年代末とも、あるいは戯曲が初演された八五年のころとも異なつた形で、人間が世代の差をこえ、共通の恐怖にさらされていることを示したのか。そこに流れる、忌野清志郎による「イメージ」日本語版の歌声が、この時代に生きるための新しい友情を、照らしだしていた。

かるべただし。1965年生まれ。東京大学教授。専門は日本政治思想史。2006年には「丸山眞男 リベラリストの肖像」(岩波新書)でサントリー学芸賞を受賞。日本の近代思想の新たな研究で知られる。近著「移りゆく「教養」(07年NTT出版)では、「教養」は単なる専門知識ではなく、人間の知恵や判断力を培うもの、この普遍的考察を、日本政治思想の流れを背景としながらも、多角的な事例検証によって、見事に浮き彫りにしている。

【作】清水邦夫 【演出】蜷川幸雄
【出演】さいたまゴールド・シアター NINAGAWA STUDIO 清家栄一 新川将人 澤魁士 飯田邦博
野辺高三 宮田幸輝 西村高 市川貴之 太田登子 / 松延謙賢 菅原知明 / 横田栄司
5月28日(水)～6月5日(木) 全10公演

©宮川舞子



interview

YUKIO NINAGAWA

『ガラスの仮面』、 そこに実現していく 夢がある

音楽劇『ガラスの仮面』に取り組むこと。
それは蜷川幸雄の“演劇”の素晴らしさを共有
したいという願いと、さらなる夢の入り口だった。
今回上演に取り組む意欲とともに、
新たな蜷川の夢が明らかとなった。

取材・文 (4-7P) = 徳永京子 (演劇ライター)

photo: 大原狩行 本選会 photo: 宮川舞子

『ガラスの仮面』を手がける意味

僕が『ガラスの仮面』をやるというニュースが流れた途端、どこに行っても「あのエピソードは採り上げるんですか」「あのシーンはどう演出するんですか」と質問されるようになったんですよ。演劇記者はもちろん、そうでない人にもね。そのたびに改めて、この原作がいかに多くの人に愛され、大きな影響を与えているマンガかということを知っています。一方で、『ガラスの仮面』は過去に舞台化もされています(88年。脚本・美内すずえ、演出・坂東玉三郎)し、テレビドラマにもなった(97年)。イメージの世界でも、具体的な前例でも、とにかくライバルが多くて大変な作品なんです(笑)。

そういう作品を手がけることに、もちろん恐怖はあります。ありますが、その恐怖を抑え込む方法も知っている。僕はこれまで、イギリスでシェイクスピア作品を上演したり、ギリシャでギリシャ悲劇をやってきた。自分よりも専門的な知識を持ち、強い思い入れを抱いている人の前で「これが僕のこの作品に対する見解です。いかがですか」と問う経験をしてきているわけで、少しずつ度胸がついてきたんですね。

それに『ガラスの仮面』を上演したい大きな理由が僕にはあります。普段、演劇と疎遠になっている子供と若者に「劇場に行ってみよう」と思ってもらいたい。ゲームもいいけど、劇場という場所まで行くと、こんなおもしろいものが体感できるんだということを伝えたいんですね。それをわかってもらうには、演劇が出来る過程をストーリーの中で見せることが、非常に有効だと思うんです。つまりバックステージものですね。それと、多くの人が感情移入しやすいよう、いろんな境遇の登場人物が必要です。『ガラスの仮面』はそうした点で打ってつけの題材なんです。それを音楽劇にすれば、さらに間口は広がる。そう考えたから、さまざまな恐怖を押しつけ(笑)、この作品を選ばせてもらいました。

演劇の良さを知って欲しい、そして

この舞台をきっかけに、若者に演劇に興味を持ってほしい。興味を持ったら俳優を志してほしい。そのための劇団をつくりたい。今、そんなことも考えています。さいたまゴールド・シアターで刺激的かつ素晴らしい経験をさせてもらい、考えたんです。こうした出会いが若い世代ともできないだろうか。少し先になるかもしれませんが、若者と劇団をつくり、その劇団とゴールド・シアターで舞台をつくったら、その作品は、そして日本の演劇界はどんなに豊かだろうと思う。それが僕の今の大きな夢なんです。

その第一歩となるわけですから、『ガラスの仮面』はスター主義ではありません。主人公のマヤと亜弓をオーディションで決めました。結果的に、マヤ役にはすでに演劇経験のある大和田美帆さん、亜弓役には経験ゼロの奥村佳恵さんが決めましたが、僕自身、彼女達とこの作品を真っ白い状態から立ち上げていくのが、とても楽しみです。



2330人の応募から今年1月末、14人で行われたオーディション本選会

ガラスの仮面 主要人物紹介

北島マヤ きたじま まや

大和田美帆

月影千草のもと、劇団つきかげの奨学生となり女優への道歩んでいる。何よりも芝居が好きという強い情熱を持つ。

姫川亜弓 ひめかわ あゆみ

奥村佳恵

有名映画監督と大女優・姫川歌子の間に生まれ、子役の頃からその天才的な演技力と美貌で名声を欲しいままにしてきた、演劇界のサラブレッド。

桜小路 優 さくらこうじ ゆう

川久保拓司

姫川亜弓も所属する劇団オンディーヌの若手の実力派俳優。マヤのデビュー当時からマヤを励まし、精神的に支える好青年。

速水真澄 はやみ ますみ

横田栄司

大手芸能プロダクション・大都芸能の若社長。『紅天女』を自らの手で上演することに執念を燃やす一方で、マヤの演劇への情熱に心惹かれていく。

月影千草 つきかげ ちぐさ

夏木マリ

『紅天女』の上演権を持つ往年の大女優。劇団つきかげを主宰するかたわらマヤの才能を一目で見抜き、厳しい訓練を課して育てている。

“運命の二人”と呼ばれる中で

「マヤ役がどうしてもやりたかったです。受けられなかった予定の本選会に奇跡が起きました」
北島マヤ役：大和田美帆

これまで何度かオーディションを受けてきて、苦い経験があるんです。あまり強く「受かろう」と思い過ぎると、私は空回りしてしまう。特に今回は、どうしても演じたい『ガラスの仮面』です。いつも以上に、受かることよりも審査員の皆さんに「今の私を見てください、という気持ちで臨もう」と思いました。実はこのオーディション、自分で雑誌で見つけて、事務所に「受けさせてください」とお願いしたんです。応募条件を読んだら、ギリギリだけど年齢もセーフで(笑い)、これはもう何がなんでも受けなければ、と。でも最終選考の日が、以前から決まっていたお仕事で地方の撮影が入ってしまっ...。すっかり諦めていたのに、急ぎよ、参加できることになったんです。

どれくらい急かすかというと、歌の審査用の楽譜も用意できないくらい。伴奏の方が暗譜で弾ける曲だったので演奏していただけでしたが、それも含めて、その日は不思議な力に背中を押してもらえました。緊張よりも最終選考に参加できたことがただただ嬉しくて、受けられる喜びでいっぱいだったので、いつもよりリラックスしていたんです。そのおかげで自分の力を出しきれました。その達成感だけでも大きな財産になったのに、マヤ役に選んでいただけで、本当に本当にうれしかった。もちろんプレッシャーはあります。でもなぜか怖くないんです。私は天才女優ではないので、蜷川さんにボロボロにしないで、一生懸命マヤを演じたいと思います。



全応募者2330人から選ばれた北島マヤ役の大和田美帆さん、姫川亜弓役の奥村佳恵さん。その二人にオーディションでの想いや本公演への期待を取材した。

「進路を決める時期に母から渡された新聞記事。それが『ガラスの仮面』のオーディション募集でした」
姫川亜弓役：奥村佳恵

小さい頃からクラシックバレエに興味があって、6歳から習っています。途中で「練習、どうすればサボれるかな」と必死で考えた時期もありつつ(笑い)、踊ることは大好きでずっと続けてきました。でも進路を決める時期になり、バレエ以外の表現にもチャレンジしたいと悩んでいる時に、母からこのオーディションの話を教えてもらったんです。と言っても、新聞の小さな記事を見せてもらったのですが、『ガラスの仮面』が大好きだったこともあって、受けることを決めました。でも、なんの経験もない私がかかるなんて、世の中そんなに甘くないだろうと思っていましたし、面接でも予選でも、周りの人がみんな自分より熱心で上手に見え、終わるたびに「きっと落ちた」と落ち込んでいました。ただ、たくさん不合格の人が出る中で、私はせっかくチャンスを与えてもらったんだから頑張らなきゃという意識が、日を追うごとに芽生えてきたんです。それでも、最終選考のあと待機していた部屋に蜷川さんがいらして、「よろしくね」と言われた時は、本当に頭の中が完全に真っ白になりましたけど(笑い)。今、歌や演技のレッスンを受けていて、できないことばかりで不安が募ります。でも漠然とした不安は演技の邪魔になるでしょうし、事務的に「これができた」と技術を高めることは私には意味がないと思っています。亜弓を演じるというはっきりした目標があるので、そこに真っ直ぐ向かって努力したいです。

今、歌や演技のレッスンを受けていて、できないことばかりで不安が募ります。でも漠然とした不安は演技の邪魔になるでしょうし、事務的に「これができた」と技術を高めることは私には意味がないと思っています。亜弓を演じるというはっきりした目標があるので、そこに真っ直ぐ向かって努力したいです。

月影千草という謎の大女優

精神科医の視点で活躍されている香山リカさんに、『紅天女』のゆくえを握る月影千草の内面を解説してもらった。



月影千草は、この壮大な物語のまさにキーパーソン。彼女の一存で『紅天女』の主役は決まり、その時点で物語に決着がついてしまう。誰もがいちばん気になるのが、実はマヤや亜弓の心理ではなく、「月影先生はいったい何を考えているのか?彼女は最初から主役はマヤしかない、と思っているのか、それとも...」とその心を読もうと必死になるだろう。実は、『ガラスの仮面』とは月影先生の心の中を読み解く物語、とすることさえできるかもしれない。さて、そういった物語を決定する権利を持つ月影先生のような人は、一般的にいったいどんな

心理になるのだろう。プレッシャーに押しつぶされたり、情に流されて誤った判断をしてしまったりしないように、まず自分の心に何重ものよろいを着せ、感情を表に出さないようにするはずだ。結果的に尋常ならざる孤独が訪れるが、それに耐える強さを持ち合わせていなければならない。ちょっとした迷いや不安さえ、すべて「芸術」という目的のためのエネルギーとなる。しかし、人間はいくら感情を否定し、理性の力で生きようとしても、うまくいかない場合がある。月影先生は、思わずあふれ出る感情とどう直面し、それを誰にぶつけているのだろうか。ますます気になってしまう。若いうちはついマヤや亜弓に目が行くが、やはり『ガラスの仮面』とは月影千草を知る物語、なのかもしれない。

香山リカ かやまりか

1960年札幌市生まれ。東京医科大学卒。精神科医・立教大学現代心理学部映像身体学科教授。学生時代より雑誌等に寄稿。その後も臨床経験を生かして、新聞、雑誌で社会批評、文化批評、書評なども手がけ、現代人の“心の病”について洞察を続けている。専門は精神病理学だが、テレビゲームなどのサブカルチャーにも関心を持つ。著作に「弱い自分を好きになる本」『うつ病が日本を滅ぼす!』など。

大和田美帆 おおわだ みほ 奥村佳恵 おくむら かえ 川久保拓司 かわくぼ たくじ 横田栄司 よこた えいじ 夏木マリ なつき まり

東京都出身。1983年生まれ。2003年『PURE LOVE』(小池修一郎:演出)ヒロイン役でデビュー。以後、舞台を中心にテレビ、CM等幅広く活躍。主な出演作として、舞台『ファンタスティックス』(宮本亜門:演出)、『恋愛戯曲』(鴻上尚史:作・演出)、『阿国』(塚本晋也:演出)、『風林火山』(石川耕士:演出)、『恐竜と隣人のポルカ』(後藤ひろひと作・演出)、テレビドラマ『菜と紙魚子の怪奇事件簿』、『シンデレラになりたい』など。

大阪府出身。1989年生まれ。6歳からクラシックバレエを学ぶ。今春、高校を卒業。今回の『ガラスの仮面』が初舞台となる。

東京都出身。これまでにテレビ、舞台、映画と幅広く活動。主な出演作として、舞台『風魔の小次郎』、『ハロルドとモード』、テレビ『ウルトラマンネクサス』、『虹の紋章』、『風魔の小次郎』、映画『最終兵器彼女』などがある。雑誌『Gainer』でもモデルを務めている。

東京都出身。文学座座員。これまで舞台、映画、テレビと幅広く活動。主な舞台に、さいたま芸術劇場では『リチャード三世』、『近代能楽集』、『タイタス・アンドロニコス』、『リア王』がある。ほかに『ひばり』、『カリギュラ』、『ヴェニスの人』など。本年5月には、さいたまゴールド・シアター第二回公演『95kgと97kgのあいだ』に出演。それ以外では映画『独立少年合唱団』、テレビ『私立探偵・濱マイク』第一話など。

1973年歌手デビュー。80年代より演劇へも活動の場を広げ、紀伊国屋演劇個人賞等受賞多数。93年から続くシアターワーク「印象派」は国内外で高い評価を得て演出にあたり続けている。声優では『千と千尋の神隠し』の怪演も好評で、04年サッカーワールドカップ予選での国家独唱は絶賛を博す。06年『ジエド・マリ』を率いてブルースバンドを結成。07年パフォーミンググループMNTを立ち上げ、後進の指導にも務めている。蜷川作品では『なぜか青春時代』、『天保十二年のシェイクスピア』、『ハムレット』、『リチャード三世』、『近代能楽集〜弱法師』に出演。

	8	9	10	11	12	13	14	15	16
曜日	金	土	日	月	火	水	木	金	土
13:30							休		
18:30						演			
曜日	日	月	火	水	木	金	土	日	
13:30		休							
18:30		演							

*****PLAY*****

彩の国ファミリーシアター 音楽劇 ガラスの仮面

【日時】8月8日(金)～8月24日(日) 全22公演 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【原作】美内すずえ 【脚本】青木 豪 【演出】蜷川幸雄 【作曲】寺嶋良哉

【出演】大和田美帆 奥村佳恵・川久保拓司 横田栄司 立石涼子 月影 瞳 原康義 月川悠貴 黒木マリナ 岡田正・夏木マリ

【チケット(税込)】好評発売中 一般:S席6,000円/A席4,000円 メンバース:S席5,400円/A席3,600円

【バックステージ・ツアー】全公演の開演前に実施(先着順) 詳細は財団ホームページにて <http://www.sat.or.jp>

メンバーズに入会すると 年会費 2,000円～ 便利で楽しい特典がいっぱい!!

- privilege 1** メンバース優先 一般発売に先駆けてチケット予約。財団主催公演で3,000円以上のチケットは10%OFF。
- privilege 2** キャッシュレス チケット代・年会費はご指定口座からの引落。WEB会員登録(無料)で、インターネットからも購入可能。
- privilege 3** チケット送料無料 セキュリティバック(補償付き)で、ご登録住所に無料送付。
- privilege 4** ポイント制度 購入金額10円で1ポイント。貯まったポイントはチケットと交換可能(1ポイント1円で換算)。※ポイント加算はH20.10月末で終了致します
- privilege 5** 情報誌と特別参加企画 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」(隔月発行)をお届けのほか、公開対談・舞台稽古見学会のご優待。

ご入会希望の方は、メンバーズ事務局 048-858-5507

公開対談シリーズ第14回
NINAGAWA 千の目

両演出家の間に漂う、舞台を創ること、そして観客に手渡していくことへの真剣さから流れる空気。それは限りなく透明で、願いに満ちたものとして、その日の対談会場を包んでいた。

(財)埼玉県芸術文化振興財団 芸術監督・演出家

振付家・演出家

蜷川幸雄 × 天児牛大

海外という異文化の中で“演出”を行う、ということ

蜷川 (以下N) 今日外国から帰ってきたばかりの天児牛大さんをお迎えしております。天児さんは世界を舞台として活躍している優れた舞踏の踊り手であり、演出家です。若い頃からの僕の友人です。どこから帰って来たのですか。

天児 (以降A) フランスからです。3月はじめにリヨンの国立歌劇場で新作オペラ『Lady SARASHINA』という、「更級日記」をモチーフとした作品を演出しました。その後5月パリの市立劇場で、2年ぶりに山海塾の新作を発表しました。蜷川さんは年間11本なされていますが、私はこの2本であっぴあっぴです(笑い)。

N もっとやってください。海外でやる場合、芝居でもよくあるのは論理的に要求されて、それを説明しないとなかなか先に進まないことです。僕もすごくあったのですが、ディスカッションは多いですか。

A 余り多くないです。話しだすときりが無い。“なぜ”ということが始まると、“なぜ”で時間がどんどん過ぎていきます。ある意味ではそれも彼らにとっては大事なこともかもしれませんが、リハーサルの時間は限定されていますからね。その間ディスカッションだけをやってしまったら実際の進展がなくなるので、極力そういう場合には僕がその動きをやって見せてしまうようにします。そして時間外でどういうところに問題があるかを聞いたりする形で進みます。

美しくいいものは大事にして、皆さんに育てていただかないと持続できないものなんです(蜷川幸雄)

N 本当に異文化同士の出会い方を語っていたら、何時間でも語れますよね。感情的になることはないのですか。

A それはいいですね。それは蜷川さんの特権でしょうけれど(笑い)。感情的になってぶつかるよりは、なぜかということの中で引き受けるようにする、それはあります。ぶつかるのは簡単です。でもそういうところで自分のポジションだけを決めていくような主義主張を言っただけでは、互いに曲げないではないですか。僕はそこは手前で止めて、「どうなのかな?」と考えた方がよいかと思うのです。

N 来たね～え! 人間的に出来ているんだよ。僕なんか、すぐ怒っちゃうよ(笑い)。

二人の演出家が「認め合うこと」、そして「願うこと」

N 新しい体験、嫉妬するようなイメージの舞台が天児さんの舞台にはあります。あるとき驚いたことがあったのは、蓮の花です。僕が蓮をやると決めていて、彼の舞台を見に行ったら蓮の花が舞台にあって、それが上に乗って行きやがるの。時々イメージがぶつかることがあるんだよね。

A 蓮は、逆に蜷川さんの芝居を渋谷に見に行った時に先に使っていたのですよ。その時に僕はすでに蓮を使うことを決めていて、美術も作り始めていたのです。あの時に蜷川さんに言いましたよ、「僕、次は蓮ですよ」と。あれは蜷川さんが先だったのです。でもその時には僕は決めていたということなのです。これだけは事実です(笑い)。

N 妄想が妄想を呼ぶものだ(笑い)。良きライバルとして、蓮の時には「あそこを上げていくんだ!」と、これはショックだったんです。こんな美しいものがこの世にあるだろうか、と、しびれるわけです。さらわれていくような気がするわけです。

そういう関係でライバル心と、僕にはない“いい美学”を持っているなど思っている天児さんです。新作の舞踏は何という題の作品を作ったのですか。

A 今回の新作のタイトルは、『とばり』です。これは今年9月に北九州で、10月に東京で上演します。

N 新作は、いままでやっていた仕事と大きく狙いが違うところはあるのでしょうか。

A いつも言っていることですが、さほど違ってくるということはないのです。自分ではバリエーションに向かうつもりはありません。私の場合は2年に1本なので、その間も自分で気になったこととか、実際作っている過程の中で、「この部分はこういう方法、方向性もあるな。」ということ逆を逆にしてドロップしていくような、そういう作業に近いのです。

N 2年に1本なんだ。俺1年に10本ぐらいやっている。

A そういった意味では2年に1回の新作をプロポーズしてくれたパリの市立劇場には、本当の意味で感謝しています。新作と以前の作品の二本立てです。契約は毎回で、長期契約ではない。それでも何とか続いて来られました。

パリの市立劇場で26年間、2年ごとに12回やりましたが、ディレクターから次の作品はこういう傾向がいいのではないかと言われたことが一度もないのです。全くないのです。ただ決まっているのは、結果論だけです。次の作品に対して何を自分が切り口として出すか、それに対してどうなのかという問い、そしてそこに自分を先鋭化させ集約させていだけ。何を自分で包括していればいいのか、それだけです。しかしそれは、意外にクリアで厳しいですね。

N その厳しさは結構すごいですから。ペーター・シュタインの作品もエジプトのフェスティバルで1年目、2年目に絶賛されたチェホフでも、3年目は途中でお客さんがぞろぞろ帰ってしまっ

A ヨーロッパの公共劇場やフェスティバルは、税金ないしはファンで支えられています。ですから、それらを支えているのは我々であるという考えが観客のベースにありますね。さらにチケットは自分で払うから、それを自分が買うということの主張は非常に厳しいと思います。ある意味では彼らはものを獲得したい、だけど拒否権を持っているわけです。そのあたりが舞台に向き合う時の自分の感性をより高めていこうという姿勢かと思うのです。それで観客自身がそれに対して、ノーという答えを出す時にはたぶん客席を立ていくのだと思います。これも一つの発言だと思います。

N 受け入れてくれる時もすごいですね。

A 個人で持っている、先ほどと同じような権利意識というか、自分を高めたいという出会いの場でもあるのだと思います。丁々発止ということにもなりますね。

N 文化的な差なものもあるし、ヨーロッパは冬寒いし、暗い時間が長いから劇場にでも行かなければ一日がつぶれないのではないかと気がします。でも劇場に行くという積極的な選択を得た結果、A点からB点まで行くということがものすごく大事なことだと思っているのです。僕らはそれに値する、皆さんの労力に値する仕事をしなくてはいけないと思っていますので、是非劇場に行くということで応援していただけるとありがたいと思っています。今日は大事な話が出来たことに、天児さんに感謝して終わりたいと思います。



profile: 天児牛大 (あまがつうしお)
 山海塾主宰・振付家・演出家。1949年生まれ。75年に舞踏グループ山海塾を創設。80年より海外ツアーを開始し、世界43カ国にて公演を重ねる。オペラの演出も手がけ「青ひげ公の城」(97年・東京)、ペーター・エトヴェシュ作曲の新作オペラ「三人姉妹」(98年・リヨン)、そして今年3月には「更級日記」をモチーフとした同氏の最新オペラ「Lady SARASHINA」をリヨン国立歌劇場にて演出。また今年5月、パリ市立劇場、北九州芸術劇場との共同プロデュースにより、山海塾の新作「降りくるもの」なで「とばり」を発表。今秋、2年半ぶりの国内ツアーを行う。
<http://www.sankaijuku.com>



ベネディック (小出恵介)

パデュアの青年貴族。「寝とられ亭主になるのはごめん」という信念?から絶対結婚しないと宣言している。戦場では勇敢な武将だが、普段は機知に富んだ冗談や皮肉で人を煙に巻く天才。ビアトリスとは似たもの同士の口喧嘩仲間。しかし内心かなり気になっている様子で「あんなに凶暴でなければ美人」と評したり、悪口を言われて密かにへこむ可愛げもある。二人をくっつけようと計略したドン・ペドロは、それを見破っていたのかもしれない。



ビアトリス (高橋一生)

メッシーナ知事レオナートの娘。男に従属する生き方を当り前と思わない、強い意志と聡明さを持った女性。発する言葉はかなり痛烈だが、性格が明るいせいかわ嫌味にならず、ベネディックとの皮肉の応酬も周囲からは「陽気な戦争」など、ある意味ほほえましく思われている様子。ベネディックが自分を好きだと聞いたときの改心ぶりや、従姉妹のヒアローが辱められたときの怒りようからは、芯は素直で優しい女性であることが伝わってくる。



クロードイオ (長谷川博己)

フローレンスの伯爵。戦の出陣前にヒアローを見初め、凱旋して恋を自覚する。その恋をまず友人や主君に相談するところは慎重派、しかし主君の「私が君の代わりに彼女を口説いて結婚させてやろう」という提案にのるところは少々おっとり過ぎ? いずれにしても素直で高潔な気性が周囲の人に愛されている。その素直さゆえに騙されやすく、高潔さゆえに裏切られたときの怒りは大きい。そして自分の間違いに気づけば潔い、正統派の好男子。



ヒアロー (月川悠貴)

メッシーナ知事レオナートの娘。従姉妹のビアトリスと対照的に口数少なく、父親の言いつけに素直に従ってクロードイオとの結婚を承諾する。ドン・ジョンの悪巧みによって無実の罪を着せられたときも、反論や言い訳の前にショックで気を失ってしまうお嬢様ぶり。しかし、その後で父親に責められたときの毅然とした言葉からは、芯の強い女性であることが伝わってくる。本当の女の強さを持っているのは、ビアトリスより彼女かもしれない。

オールメール・シリーズ第4弾『から騒ぎ』が描く、喜劇の真髓を見逃すな

今回のオールメール・シリーズ第4弾『から騒ぎ』は、まさに恋愛喜劇。それを演じる旬な俳優も見逃せない。舞台初出演の小出恵介をはじめ、若手俳優の実力派による「等身大の若者たち」が舞台上で繰り広げる恋の展開が待ち遠しい。

中期喜劇の傑作、恋を軸に展開する『から騒ぎ』

彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾として、人気のオールメール・シリーズの最新作が登場する。イタリアのシシー島メッシーナを舞台に、貴族の若者たちの恋が引き起こす騒動を描く『から騒ぎ』。数あるシェイクスピア喜劇の中でも、ウィットに富んだ言葉の豊穡さ、それを繰り出す登場人物たちの生き生きとした魅力は屈指といわれる傑作だ。

ストーリーの軸となるカップル二組の対照が、まず面白い。戦争で大きな武勳を立てたばかりのクロードイオ伯爵は、メッシーナ知事レオナートの娘、ヒアローのしとやかな美しさに一目惚れし、主君であるアラゴン領主ドン・ペドロの力を借りて求婚する。一方、クロードイオの友人でやはり勇敢な武将のベネディックは、

ヒアローの従姉妹ビアトリスと顔を合わせるたびに丁々発止の口喧嘩を繰り広げる仲。ところがその二人が、ドン・ペドロたちの計略で互いに相手が自分を好きだと思い込み、あっさり恋に落ちる。逆にクロードイオは、ドン・ペドロの腹違いの弟ドン・ジョンにだまされ、結婚式の最中にヒアローを浮気な女と罵倒。傷ついたヒアローは気絶。怒ったビアトリスはベネディックに「クロードイオを殺して」と迫り、事態は混乱を極めるが……。

魅力溢れる「等身大の主人公たち」

オールメール・シリーズではこれまで、『お気に召すまま』『間違いの喜劇』『恋の骨折り損』を上演してきた。この三作と今回の『から騒ぎ』の共通点は、いずれも若者たちの恋愛や冒険を軸にした賑やかな喜劇であること。そして、一見ただのドタバタとも思える展開の中に、若者たちの“自分探し”と、困難を乗り越えた後の成長が描かれている点も共通している。演出の蜷川幸雄がこのシリーズに毎回、旬の若手俳優を起用することで、作品のそういった魅力がさらに際立っているのではないだろうか。

『から騒ぎ』のメンバーも、まさに旬かつフレッシュな顔ぶれがそろった。主役のベネディックは、正統派から癖のある役、コミカル

な役柄まで幅広く演じられる若手実力派として、ドラマに映画にひっぱりだこの小出恵介。今回が満を持しての初舞台となるが、蜷川は「シャープでいい俳優だな、と思った」と大きな期待を寄せる。ビアトリス役の高橋一生も、舞台、映像、声優と幅広く活躍する若手実力派。中でも舞台は横内謙介、鴻上尚史、KERA など多彩な演劇人のもとで経験を重ね、蜷川作品も二作目となる。初めて挑む女役で、どんな演技を見せてくれるか楽しみだ。クロードイオ役の長谷川博己は、数々の舞台で繊細でしなやかな演技を見せて、評価・人気ともに急上昇中。『KITCHEN』『カリギュラ』『わが魂

Profiles

小出恵介 こいで けいすけ

2005年、映画『バッチギ!』(井筒和幸監督)でデビュー。若手実力派として注目を集める。主な出演作に映画『きみにしか聞こえない』(萩島達也監督)『キサラギ』(佐藤祐市監督)『恋空』(今井夏木監督)『僕の彼女はサイボーグ』(クァン・ジェヨン監督)、ドラマ『おいしいプロポーズ』(TBS)『のだめカンタービレ』(CX)『佐々木夫妻の仁義なき戦い』(TBS)『ROOKIES』(TBS)等。今作で初舞台にて主演を務める。

高橋一生 たかはし いっせい

舞台・映画・ドラマで幅広く活躍。主な出演作に舞台『トランス』(鴻上尚史演出)『アイスクリムマン』(岩松了演出)『ファイナルファンタジクスーパーノーフラット』(本谷有希子演出)、『半落ち』(佐々部清監督)『スウィングガールズ』(矢口史靖監督)『ミートボールマシーン』(山口雄大監督)ドラマ『風林火山』(NHK)『医龍2』(CX)『1ポンドの福音』(NTV)『ゴンゾウ』(ANB)等。蜷川作品は『にこ江』以来2作目。

長谷川博己 はせがわ ひろき

2001年文学座研究所に入所。TPT『BENT』(ロバート・A・アッカーマン演出)で初舞台を踏み、以降も『ゴロヴリョフ家の人々』(永井愛演出)『赤い月』(鶴山仁演出)『トーチングトリロジー』(鈴木勝秀演出)など多数の舞台で活躍。06年文学座退団後も、『シェイクスピア・ソナタ』(岩松了演出)など話題の舞台に出演している。蜷川演出作品には05年『KITCHEN』07年『カリギュラ』に続き本年5月『わが魂は輝く水なり』に出演。

月川悠貴 つきかわ ゆうき

1985年初舞台。数々の舞台・テレビの他、コンサートやディナーショー等歌手としても活動。蜷川演出作品の娘役になくはならない存在で、オールメール・シリーズ全作品出演。『お気に召すまま』シリーズ、『間違いの喜劇』ルシアナ、『恋の骨折り損』マリヤなど、その演技はどれも好評を博す。その他近作では『タンゴ・冬の終わりに』『カリギュラ』出演。『ハムレット』『タイタス・アンドロニカス』では劇中歌も担当。

NEWS!!

2009年1月、蜷川幸雄×唐沢寿明による彩の国シェイクスピア・シリーズ第21弾『冬物語』上演決定!!

※メンバー優先予約は、9月初旬にお送りするプレオーダーシートにて

●●●●PLAY●●●● 彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾『から騒ぎ』

【日時】10月7日(火)～23日(木) 全18公演
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
 【演出】蜷川幸雄 【作】W.シェイクスピア 【翻訳】松岡和子
 【出演】小出恵介 高橋一生 長谷川博己 月川悠貴 吉田鋼太郎 瑤川哲朗 ほか
 【チケット(税込)】好評発売中
 一般:S席9,000円/A席7,000円/B席5,000円/学生席2,000円
 メンバース:S席8,100円/A席6,300円/B席4,500円
 【バックステージツアー】10月15日(木) 公演終了後(30分程度) 詳細は財団ホームページにて
 【アフタートーク】10月20日(月) 公演終了後出演者によるトークあり http://www.saf.or.jp/

10月	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:00					●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13:30																	
18:00																	
18:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

interview

SABURO TESHIGAWARA

光をテーマに、 驚きとピュアな 身体感覚を 呼び覚ます

勅使川原三郎のダンスにおいて
キー・エレメントの一つであるのが「光」。
『Here to Here』では、強烈な光のただ中という
リスキーな空間に身を置き、
敢えて自らを戸惑わせることで新たな身体感覚に迫る。
世界で活躍するトップ・アーティスト勅使川原三郎が、
その飽くなき探求について熱く語った。

勅使川原 三郎
Saburo Teshigawara

クラシックバレエを学んだ後、1981年より独自の創作活動を開始。85年に宮田佳と共にKARASを設立以降、常に世界のダンスシーンで先駆的な活動を続ける。舞台美術・衣装・照明等も自ら手がけ、作品の透徹した美と独自のダンス哲学が世界各国で高い評価と支持を得ている。パリ・オペラ座など著名バレエ団への振付他、映像・執筆等多方面で活躍中。ダンス教育にも力を注ぐ。現・立教大学教授。

文 = 堤 広志 (舞台評論家)

昨年イタリアとフランスで、久々に『Here to Here』を上演した勅使川原三郎。来る9月には、彩の国さいたま芸術劇場で待望の日本再演をはたす。舞台は白い壁に囲まれたシンプルな四角い空間。何もかもが晒されてしまうような極限的状况に身を投じ、絶妙なライティングと微細な質感を伴う動きで、稀有な時間を成立させていく。世界で活躍するトップ・アーティストといえども、あえて自らにリスキーな状況をあつらえ、挑んでいく姿が印象的だ。

「すべてにおいて保障されていない状態から出発する。何を創ってもそうなんです。自分を戸惑わせてしまうような状況が、僕にとっての創る場所だと考えています。踊りやすいというよりは、踊りにくい空間を造っていくことが多い。劇場という限定された場所で、光や時間と僕らの身体はどう関わっていきけるか、常に疑問なわけです。『Here to Here』では、エレメントを光と空気と身体との3つに限定してみたら、どんなことができるかということ考えた。特に、まず考えたのは光です」

勅使川原は、これまでも光をテーマとする作品をいくつか発表している。光の裏側にある光を探究した『Light Behind Light』(2000年初演)や、光や音の知覚により変容する身体を提示した『Luminous』(2001年初演)などがそう。しかし、『Here to Here』(1995年初演)は、それらに先立って光をテーマとした原点的な作品であるという。それにしても、光という一つのテーマから傑作を多く「倍加」させていく秘密はどこにあるのか? その創作の源泉は、どうやら彼の飽くなき探究心にあるようだ。『Here to Here』では、光というテーマが“影のない存在”という発想へ展開していったという。

「そもそも僕らには常に影が存在しているけど、影がない存在の仕方というものはどういうものかと想像した。それで実際に自分のスタジオで装置を造って、どういう光の中に僕らの身体があるのか、いろいろ実験するわけです。以前、『T-CITY』(1993)という映画を作った時には、カメラと被写体の焦点距離が一枚の曇りガラスを隔てて遠近が出るわけですが、そのカメラは単一の焦点距離しかなくて、フォーカスが合うのは一点だけなんです。そこからはずれるとボケるし、ちょうど合った時にだけすっきりした画像になり、視覚的なものが得られる。この作品でも、ある地点に立った時に初めてくっきりした画像が出てきて、そこから離れると“影だけの存在”は消えていく。反対に光の圧力によって現れる“影のない身体”を発見するのです」



この光と影を追求した実験の成果は、効果的な演出となって実際の舞台にも現れるので、ぜひ注目しておいてもらいたい。さらに、この実験装置は勅使川原に未知の身体感覚をもたらしたようだ。

『Here to Here』の舞台装置の中に入ると、遠近感がなくなるんですよ。つまり、僕らは光の度合いによって、遠近感を得ている。網膜に写って知覚しているもの自体は、カメラのフィルムが平たいように、立体じゃないですよ。立体だろうと認識したことを、実際に触ったり体験して立体的なものだと判るわけでしょう。光の度合いの変化だけの空間内で距離感を失った状態になると、身体が行き場所を失った感覚になる。別の新しい空間が生まれるわけです。タイトルにもあるように“ここからここ”、つまり場所が空間化する。そこに空気と呼吸する身体がある。当たり前だと思っていることを、例えば時間を、新しく感じ続けていくのが身体だと思います。それは生きることそのもの」

「常識」に縛られず、固定観念を覆すような舞台は、観客に新鮮な驚きをもたらす、同時にピュアな身体感覚を呼び覚ましてくれることだろう。極度に抽象化された空間に、勅使川原の才気が充溢する日まで、あとわずかだ。

●●●● DANCE ●●●●

勅使川原三郎『Here to Here』

【日時】9月20日(土) 開演 16:00 21日(日) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】『Here to Here』(1995年初演)

【振付・美術・照明・衣装】勅使川原三郎 【出演】勅使川原三郎 宮田佳 佐東利穂子

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席5,500円/見切れA席2,500円 メンバース:S席4,950円

※見切れA席からは、舞台の一部がご覧いただけません。あらかじめご了承ください。
※本公演では、学生席の設定はございません。

ナチョ・ドウアトの『ロミオとジュリエット』 リアルに、エモーショナルに蘇る!

スペインの大地のごとく強い生命力と

深い情感を湛えたダンスで観客を魅了するナチョ・ドウアト。

『ロミオとジュリエット』でも、現代の男女にも通じる

個性的で人間味溢れる不朽のヒロイン・ヒーローたちを、

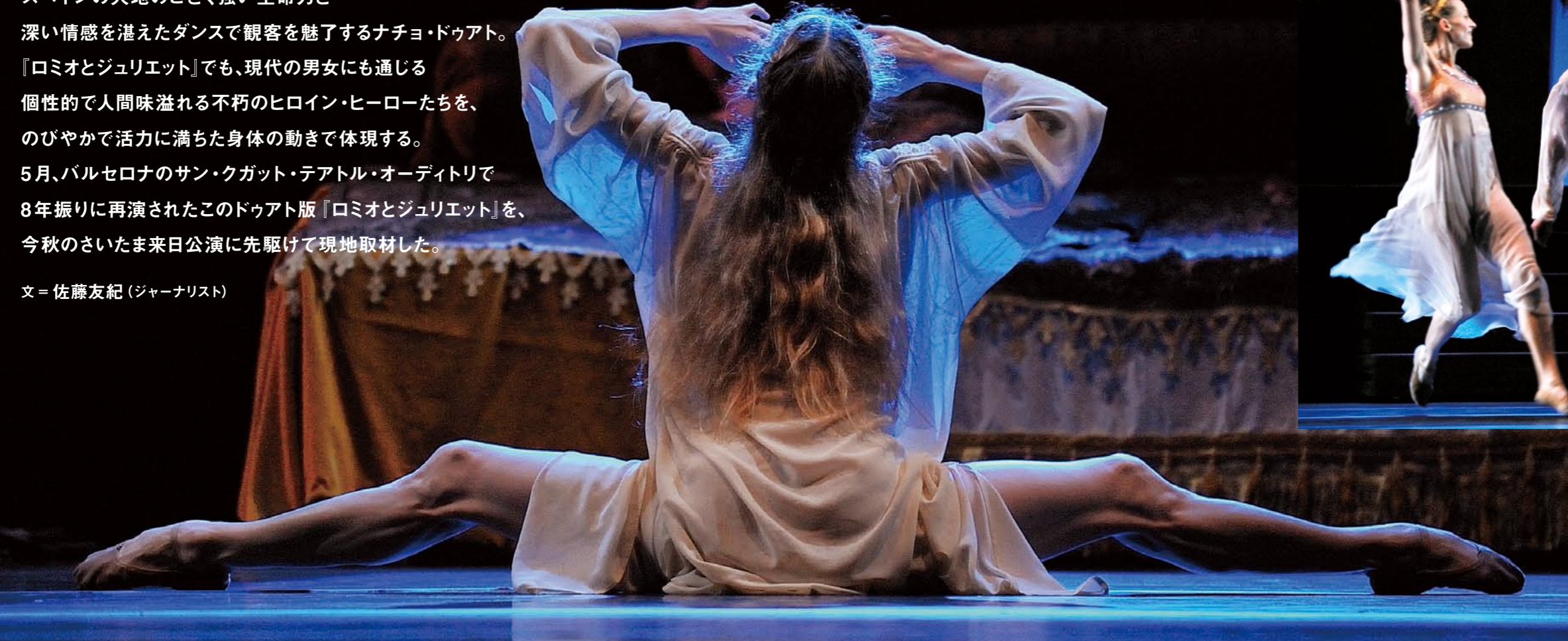
のびやかで活力に満ちた身体の動きで体現する。

5月、バルセロナのサン・クガット・テアトル・オーデイトリで

8年振りに再演されたこのドウアト版『ロミオとジュリエット』を、

今秋のさいたま来日公演に先駆けて現地取材した。

文 = 佐藤友紀 (ジャーナリスト)



聴こえてくるのはバレエの舞台ではお馴染みの、最近では某携帯電話のCMにも使われているプロコフィエフの『ロミオとジュリエット』なのに、目で観る印象が全然違う。ジュリエットやロミオはもちろん、ロミオの親友マキューシオやジュリエットの両親が愛娘と結婚させたがっている青年貴族パリスなど、脇役の1人1人に至るまで皆個性的で、ちゃんと意味のあるムーブメントを見せるなんて。噂には聞いていたが、このナチョ・ドウアト振付版『ロミオとジュリエット』、近年の名作と呼ばれるのも納得の面白さだ。

まず幕開け早々、舞台を支配するモンタギューとキャピュレット家の争い。これまでどっちがどっちか、くんずほぐれずになればなるほどわからなくなっていたが、ナチョ版はあえて両家に違いを出した。ロミオの属するモンタギュー家は、マキューシオのひょうきんさを際立たせたのと相応して、より牧歌的。ヴェローナの町をイキイキと彩る庶民風でもあり、踊りもその

流れにある。

対する常にクールさが目立つティボルト率いるキャピュレット家の若者たちは、より貴族的と言おうか。そう、『ロミオとジュリエット』の物語を20世紀のNYに置き替えたミュージカル『ウェストサイド物語』のジェット団とシャーク団にも似た両家の外見&雰囲気の違いが、舞台を観ている私たちをこれまでより深く、物語に入り込ませてくれるのだ。

そして、ジュリエット! マキューシオら友人に囲まれたロミオと違い、常に世間知らずの箱入り娘としての側面を強調されることの多かったこの不朽のヒロインの、なんと人間らしいことか。もちろん清純なイノセントさは保ちつつも、ナチョ版ジュリエットは生きる好奇心と活力にあふれ、常に自分の直観に従い、自分で決断する。だからこそ、父親と風貌がよく似たパリスとの結婚を、自分の人生を操る独裁者が替わるだけじゃないか、と本能的に感じ取り、ああまで拒否反応を見せるのか、と

いった深読みもできるのだろう。ロミオへの愛が何より上に来ることを除いても。

こうした「生きる歓び」を体現するダンスを、ナチョはあくまでもクラシック・バレエを基盤にしながらも、トゥシューズを脱がせたスタイルでダンサーたちに踊らせている。ゆえに、ジュリエットとロミオの有名なバルコニーの愛を語らうシーンも、朝の鳥の声におびえる初床のシーンも、パの美しさを極めるバレエというよりもっとリアルなエモーションをともなって私達を直撃するのである。つまり、よく観れば計算され尽くされた振付けの一つ一つが、ジュリエットやロミオがたった今感じた心の動きの延長としてそこで展開されているような新鮮さ、驚き。

聞けばナチョ自身、ゼフィレリ監督版『ロミオとジュリエット』のオリビア・ハッセーが演じたジュリエットの行動力に幼ない頃から魅了されてきたとか。そんな彼の想いも観てとれる好舞台だった。

Nacho Duato

PROFILE

ナチョ・ドウアト

Nacho Duato

スペイン・バレンシア生まれ。ランバート・スクール、ムードラ、アルヴィン・エイリー・アメリカン・ダンス・センターで学ぶ。クルベリ・バレエ団を経て、1981年、イリ・キリアンの招きによりネザーランド・ダンス・シアター (NDT) に入団。1983年、処女作『ジャルディ・タンカート』でケルン国際振付ワークショップ第1位。1988年にはNDTの専属振付家に就任。パリ・オペラ座バレエ、ロイヤル・バレエ、ネザーランド・ダンス・シアター、アメリカン・バレエ・シアター等、世界の著名バレエ団に数多く作品を提供している。1990年よりスペイン国立ダンスカンパニー芸術監督。過去2度の来日公演はいずれも大きな話題となった。

●●●● DANCE ●●●●

ナチョ・ドウアト スペイン国立ダンスカンパニー 『ロミオとジュリエット』

【日時】 11月22日(土) 開演 18:00
23日(日) 開演 15:00
24日(月・祝) 開演 15:00

※23日の公演終了後、ナチョ・ドウアトによる
ポスト・パフォーマンス・トークを行います。

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【演目】 『ロミオとジュリエット』(1998年初演) 【振付】 ナチョ・ドウアト

【音楽】 セルゲイ・プロコフィエフ ※音楽は録音テープを使用します。

【出演】 スペイン国立ダンスカンパニー

【チケット(税込)】 一般:S席7,000円/A席5,000円/学生A席3,000円
メンバーズ:S席6,300円/A席4,500円

【発売日】 一般:7月26日(土) メンバーズ:7月19日(土)



新日本フィルハーモニー交響楽団 ©K.Miura

気鋭の指揮者・ゲッシュルトで、作曲家最晩年の傑作を聴く

日本でまた一人、気鋭の若手指揮者がデビューを果たす。その高い意欲、そしてオーケストラの音楽監督アルミンクの献辞にもあるような音楽への緻密さが、名演への期待を感じさせる公演。しかも選曲は彼の得意とするオペラを含め、モーツァルト、チャイコフスキーの最晩年の傑作という極めつきだ。

文 = 堀江昭朗 (音楽ジャーナリスト)

日本のオーケストラは世界レベル

日本の、特に在京のオーケストラが世界レベルになっていることを、ご存じだろうか。身内を誉めないという日本人気質もあってか、意外にもクラシック・ファンでさえそれを認識していないことが多い。確かに20年かそれ以前には「西欧のオーケストラに追い付き追い越せ」ということがスローガンだったし、実際にまだまだと思わせるコンサートも見受けられた。しかしその後の「成長」は目覚ましく、名演と呼べるコンサートが増えてきた。そして今や、世界の第一線で活躍する指揮者やアーティストたちに聞くと「日本のオーケストラは技術的にも優れているし、音楽的にも素晴らしい」と異口同音の答が返ってくるようになった。

結成の当初からマスメディアに出ることの多かった新日本フィルハーモニー交響楽団(以下、新日本フィル)も、これまでに厳しい批評を受けながら成長し、今や日本のオーケストラを代表する存在だ。「世界のオザワ」と呼ばれる小澤征爾のもと、1972年に自主運営の団体として創立。オーケストラ演奏の基本である室内楽のコンサートを企画したり、声楽やオペラ作品、近現代の作品を積極的にレパートリーに取り込んだりと独自の路線を歩み、モダンで柔軟性の高いオーケストラへと成長してきた。さらなるターニング・ポイント

となったのは、すみだトリフォニーホールとフランチャイズ契約を結んだこと。同ホールを本拠地とし、ホールそのもので日常の練習を行うことで、オーケストラの音色にも磨きがかかっているのだ。

最晩年の傑作だから、聴き応え十分

現在の音楽監督は1971年生まれのクリスティアン・アルミンク。就任当時は若手指揮者の起用で話題となったが、双方が刺激あって新たな伝統も生まれているようだ。今回の指揮者クリストフ・ゲッシュルトは1976年生まれの若手だから、オーケストラもその「若さ」を楽しんで演奏してくれるに違いない。ゲッシュルトはドイツ出身で、アルミンクのアシスタントを務めたこともある。オペラの指揮で腕を磨き、着実にキャリア・アップしている、伸び盛りの人だ。今回のプログラムのオープニングをモーツァルトのオペラ《魔笛》の序曲にしたのは、彼らしいこだわりなのかもしれない。

続くモーツァルトのピアノ協奏曲でソロを務める児玉麻里は、そろそろ円熟の時を迎えつつある名手。幼くして渡欧し、ヨーロッパを拠点に活躍する国際派。27番は彼の最後のピアノ協奏曲で、傑作ぞろいのモーツァルトの作品の中でも最高傑作と言われる美しい作品だ。

休憩の後に控えるチャイコフスキーの交響曲第6番も同様。各所にちりばめられた美しいメロディの数々は、テレビCMやドラマや劇音楽として使われることも多いので、もしかしたら耳馴染みがあるかもしれない。甘く切なく、時に熱狂しながら、最後は消え入るように終わる作品は、豊かな後味を残してくれるだろう。

ちなみに3曲ともに作曲者の最晩年に書かれた作品。その作曲家人生の集大成とも言える名作を並べたのが、今回のプログラムだ。



児玉麻里

PROFILE

クリストフ・ゲッシュルト (指揮)

1976年生まれ。ライブツィヒで指揮とピアノを学んだ後、2002年、ハンブルク大学を優秀な成績で卒業。ライブツィヒでブリテンの《ルクレティアの凌辱》を指揮してデビュー。2002/03~04/05シーズン、ルツェルン音楽祭では、アバド、ヤンソンス、ブーレーズのアシスタントを務めた。07年よりニュルンベルク州立劇場の第2指揮者を務める。

児玉麻里 (ピアノ)

パリ国立高等音楽院卒業。プゾーニ国際コンクール等、数々の国際コンクールで優勝、上位入賞を果たす。ロンドン・フィル、ベルリン・フィルとの共演などをはじめ、欧米各国で活動を開始し、オーケストラとの共演、リサイタル、音楽祭への出演等、精力的な演奏活動を展開。1995年にはカーネギーホールでニューヨーク・デビュー。ロサンゼルス及び東京での「ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会」は高い評価を得た。

新日本フィルハーモニー交響楽団(管弦楽)

1972年、指揮者・小澤征爾のもと、楽員による自主運営のオーケストラとして創立。97年にすみだトリフォニーホールを本拠地として、日本初の本格的フランチャイズを導入。2003年より音楽監督にクリスティアン・アルミンクを迎え、優れた企画と充実した演奏でますます注目を集めている。

Christian Arming

ゲッシュルト氏とは数年来のつきあいになります。彼がルツェルン歌劇場で私のアシスタントを務めて以来、音楽について多くを語りあってきました。彼は音楽に対して極めて真摯に向き合っており、彼と共演した人は誰もが彼に好感を抱いています。ディテールだけでなく、作品全体の構造にも目が行き届いた彼の音楽観は見事なものです。今回の新日本フィルハーモニー交響楽団とゲッシュルト氏の共演を、私自身とても楽しみにしておりますし、彼の日本デビュー公演を皆様にも必ずやお楽しみいただけるものと確信しております。

クリスティアン・アルミンク
(新日本フィルハーモニー交響楽団 音楽監督)

●●●● MUSIC ●●●●

新日本フィルハーモニー交響楽団

【日時】10月12日(日) 開演 15:00 【会場】埼玉会館 大ホール 【出演】クリストフ・ゲッシュルト(指揮) 児玉麻里(ピアノ)
 【曲目】モーツァルト: 歌劇《魔笛》より 序曲 モーツァルト: ピアノ協奏曲第27番 変長調 KV595
 チャイコフスキー: 交響曲第6番 短調 作品74「悲愴」
 【チケット(税込)】 好評発売中
 一般:S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 学生B席2,000円 メンバース:S席5,400円 A席4,500円 B席3,600円

埼玉会館・彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール ランチタイム・コンサートへの誘い

1,000円で気軽に楽しむクラシック。出演者のお話も好評です。埼玉会館公演では協賛店でチケットを提示するとお得なサービスが。また、彩の国さいたま芸術劇場公演ではゆったりと1時間プログラムをお楽しみ下さい。

埼玉会館ランチタイム・コンサート

第5回 新日本フィルメンバーによるトロンボーン四重奏

【日時】9月3日(水) 開演 12:10 (終演予定12:50) 【会場】埼玉会館 大ホール
 【出演】宮下宣子 山口尚人 奥村晃 門脇賢智志 (以上トロンボーン)
 【曲目】《ドイツ曲集》より《ぼだい樹》・《ローレライ》
 テレマン: 4声のためのコンチェルト
 ヘーゼル: 《猫の組曲》より《クラケン》
 フィルモア: ラッサストロンボーン
 日本の歌メドレー ほか
 【チケット(税込)】 好評発売中 全席指定1,000円

第6回 東響メンバーによる弦楽四重奏

【日時】11月27日(木) 開演 12:10 (終演予定12:50) 【会場】埼玉会館 大ホール
 【出演】大谷康子(ヴァイオリン) 田尻順(ヴァイオリン) 武生直子(ヴィオラ) 西谷牧人(チェロ)
 【曲目】モーツァルト: 《ディヴェルティメント 二長調》KV136より 第1楽章
 クライスラー: 愛の喜び
 ヤング: 80日間世界一周
 マルケッティ: 魅惑のワルツ
 ビジョルド: エル・チョコク ほか
 【チケット(税込)】 全席指定1,000円 【発売日】 一般: 7月26日(土) メンバース: 7月19日(土)

彩の国さいたま芸術劇場ランチタイム・コンサート

リコーダーQ

【日時】12月22日(月) 開演 12:00 (終演予定13:00) 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 【出演】江崎浩司(リコーダー) 高群輝夫(チェロ) 長久真実子(チェンバロ)
 【曲目】クーブラン: 愛のうぐいす モーツァルト(江崎浩司編曲): トルコ行進曲 モンティ: チャールダーシュ スタイン(江崎編曲): LET IT SNOW! 福田和子(江崎編曲): 北風小僧の寒太郎 ほか
 【チケット(税込)】 全席指定1,000円 【発売日】 一般: 9月6日(土) メンバース: 8月30日(土)



interview

MOMO KODAMA

オリヴィエ・メシアンの音楽との対話に見いだされるもの

かねてから20世紀を代表する作曲家・メシアンの作品に特別な思い入れを持ってきた児玉 桃。彼女が記念年に行うメシアン・プロジェクト2008は、作曲家へのひとかたならない情熱とオマージュに満ちたものになりそうだ。その心境を一時帰国した児玉 桃に聞いた。

文 = 片桐卓也 (音楽ライター)

作曲家メシアンとの出会い

この秋に開催される「メシアン・プロジェクト」は20世紀を代表するフランスの作曲家オリヴィエ・メシアン(1908～1992)の生誕100周年を祝うもの。彼の没後10周年に素晴らしい演奏会を聞かせてくれた児玉桃が、改めてメシアン作品を様々な形で取り上げる。彩の国さいたま芸術劇場音楽ホールでは、その第1回と第3回が開催される。

「パリ国立高等音楽院に入学した頃、メシアン先生はまだご存命でしたが、授業はなさっていませんでしたね。でも、奥様でピアニストのイヴォンヌ・ロリオ先生を通してお付き合いはありました。最初のメシアン作品との出会いは、エピナル国際コンクール(1986年)。1940年以降に作曲された作品を演奏しなければならなかったため、《幼子イエスに注ぐ20のまなざし》から1曲を選んで演奏したのが、最初です」

10代の初めからメシアン作品に親しみ、またメシアンのオルガン即興演奏な

どを聴いてきた児玉桃は、メシアンの音楽にずっと魅了されてきた。

「音楽院ではいま生きている作曲家の作品を演奏させられることも多かったのですが、それらに比べると、メシアンの作品は、リズムも調性もきちんとしていて、むしろ古典に近い作品だと感じていました。一度も現代音楽と思った事はありません(笑)。メシアンの作品の中には、テーマの神秘性、色彩、リズム、メロディと豊かな要素がたくさん含まれていて、とても親しみやすいと思います」

メシアンの音楽からの恩恵を感じてほしい

例えば第1回(9月13日)の「レクチャー&コンサート」で演奏される《鳥のカタログ》という作品がある。これはメシアンが世界各地で出会った鳥の声を元に作曲したソロ・ピアノ曲(1956～58年作曲、全13曲)である。

「鳥の声が主役なのですが、それだけでなく、そのまわりの自然の風景～海の音、カエルの鳴き声、森のささやき、そして鳥の鳴いている時間も表現されているんです。

朝の湿った感じの空気とか、そういうものもすべて想像出来るように書かれています。驚異的なのはメシアン先生の音の混ぜ方で、こういう風に音を使うとカエルの声表現できるのかなどと、発見することが多いです。もちろん音色だけでなくリズムも複雑なので、それを理解して表現するまでに時間がかかりますが」

この《鳥のカタログ》を勉強する際に、本物の鳥の声を集めたCDを児玉は聴いていたという。新幹線の中でそれを聴いていたら、初めて音が洩れて気になると注意された。



「鳥の声というのは、ものすごく遠くまで通るものなんだと実感しました。その広がりやメシアンの音楽は表現しているんですね」

第3回(10月25日)には、姉・児玉麻里とのデュオでラヴェル、モーツァルト、メシアン作品を演奏する。

「お互いの音楽がとても良く分かっているという点で、姉は最高のパートナーです。姉の演奏をずっと聴いて育って来ましたし、姉もそうです。だから、単に練習で息が合うというだけでなく、実際の演奏会の時に、瞬間的にお互いが何をしたいのかが分かるし、新しいアイデアを感じた時に、パツと反応出来るんです」

ふたりで演奏するメシアン《アーメンの幻影》(1943年作曲)は、メシアン自身とロリオ夫人が演奏するために書いた作品。

「簡単に言えば、メシアンの演奏する部分はメロディ的、ロリオ先生の演奏する部分はリズム的と分かれています。姉とはメシアン作品のイメージが共通しているので、とても演奏しやすいです。また他に選んだのはメシアンが好きだった作曲家の作品。メシアンとのつながりを感じて頂ければ嬉しいです」

カトリック的な信仰と同時に自然の神秘性を感じさせるメシアン作品。最良の解釈者である児玉の演奏を通して、この秋にはそれを感じてみたい。



児玉 桃 (ピアノ)

幼少の頃よりヨーロッパで育ち、パリ国立高等音楽院に学ぶ。1991年、ミュンヘン国際コンクールに最年少で最高位に輝く。その後、ケント・ナガノ指揮ベルリン・フィル、小澤征爾指揮ボストン響、モントリオール響など、世界のトップ・オーケストラと共演。ソロ、室内楽においても世界の主要国際音楽祭などで活躍。今年にはルツェルン音楽祭への参加を予定している他、水戸室内管弦楽団とのヨーロッパ公演のソリストにも抜擢された。2007年メシアン国際コンクール審査員。パリ在住。

●●●● MUSIC ●●●●

メシアン生誕100年記念特別企画 児玉 桃 メシアン・プロジェクト2008

★全5回シリーズ券:18,000円 ※プロジェクトの詳細は財団ホームページ及び<http://kodama2008.com>

〈第1回〉レクチャー & コンサート 「メシアンの世界への誘い」

【日時】9月13日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【出演】児玉 桃 (トーク&ピアノ) 野平多美 (ナビゲーター) 茂木健一郎 (ゲスト)
【チケット(税込)】好評発売中 2,000円

野平多美 (作曲家・音楽評論家)

パリ国立高等音楽院作曲理論各科卒業。1990年帰国。以来、2002年まで国立音楽大学、東京学芸大学等で教鞭をとるほか、作曲・編曲活動とともに、音楽評論や企画など、幅広く活躍している。現在、アフィニス文化財団AES 専門委員。著書に「魔法のパゲット～マエストロ・ジャン・フルネの素顔」などがある。

茂木健一郎 (脳科学者)

ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー、東京工業大学大学院連携教授、東京藝術大学非常勤講師。クオリア(感覚の持つ質感)をキーワードに脳と心の関係を研究している。NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」キャスターを務め、音楽への造詣も深い。

〈第3回〉児玉麻里&桃 ピアノ・デュオ 「《アーメンの幻影》とメシアンが愛した作曲家たち」

【日時】10月25日(土) 開演 14:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 【出演】児玉麻里 児玉 桃 (ピアノ・デュオ)

【曲目】ラヴェル: マ・メール・ロワ モーツァルト: 2台のピアノのためのソナタ ニ長調 KV448 (375a)
メシアン: アーメンの幻影【チケット(税込)】好評発売中 一般:S席4,000円/A席3,000円/学生A席1,000円
メンバーズ:S席3,600円/A席2,700円

児玉麻里 (ピアノ)

パリ国立高等音楽院卒業。プゾーニ国際コンクール等、数々の国際コンクールで優勝、上位入賞を果たす。ロンドン・フィル、ベルリン・フィルとの共演などをはじめ、欧米各国で活動を開始し、オーケストラとの共演、リサイタル、音楽祭への出演等、精力的な演奏活動を展開。1995年にはカーネギーホールでニューヨーク・デビュー。ロサンゼルス及び東京での「ベートーヴェン・ピアノ・ソナタ全曲演奏会」は高い評価を得た。

EVENT CALENDER
2008.7.15 - 2008.9.30

7 July	
15 火	PLAY 松竹大歌舞伎 開演 14:00 / 18:00 会場 = 熊谷会館
16 水	
17 木	
18 金	
19 土	TALK 蛸川幸雄公開対談シリーズ NINAGAWA 千の目 第15回 ケラリーノ・サンドロヴィッチ×蛸川幸雄 開演 12:00 ※申込みは締切りました
20 日	
21 月祝	
22 火	臨時休館日(影の国さいたま芸術劇場)
23 水	臨時休館日(影の国さいたま芸術劇場)
24 木	
25 金	
26 土	
27 日	MUSIC 熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラ! 開演 15:00 会場 = 熊谷会館 ※詳細は P.22 にて
28 月	
29 火	
30 水	
31 木	
8 August	
1 金	
2 土	MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル! オルガンは小さな合唱隊!? ~うたをうたうオルガン~ 開演 14:00 会場 = 影の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演 = 大塚直哉(オルガン) ヴォーカルアンサンブル SPICA 曲目 = 「大きな古時計」による即興演奏、とおりやんせ ほか ※入場無料 ※終演後、オルガン・ワークショップあり(1時間 30分程度)
3 日	
4 月	臨時休館日(影の国さいたま芸術劇場)
5 火	
6 水	臨時休館日(埼玉会館)
7 木	
8 金	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 18:30 ※詳細は P.4 ~7 にて CINEMA 影の国シネマスタジオ 「結婚しようよ」 上映時間 12:50 / 16:20 / 19:20 ※ 12:50 上映終了後、アコースティックギター・ミニライブあり ※詳細は P.22 にて
9 土	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30 / 18:30 CINEMA 影の国シネマスタジオ 「結婚しようよ」 上映時間 10:00 / 12:50 / 16:20 / 19:20 ※ 12:50 上映終了後、石子順氏によるアフタートークあり
10 日	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30 CINEMA 影の国シネマスタジオ 「結婚しようよ」 上映時間 10:00 / 12:50 / 16:20 ※ 12:50 上映終了後、アコースティックギター・ミニライブあり
11 月	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 18:30
12 火	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30 / 18:30
13 水	
14 木	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30
15 金	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30 / 18:30
16 土	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30 / 18:30
17 日	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30
18 月	臨時休館日(影の国さいたま芸術劇場)
19 火	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 18:30
20 水	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30 / 18:30

21 木	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30
22 金	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30 / 18:30
23 土	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30 / 18:30
24 日	PLAY 影の国ファミリーシアター 音楽劇「ガラスの仮面」 開演 13:30
25 月	
26 火	
27 水	
28 木	
29 金	
30 土	
31 日	
9 September	
1 月	臨時休館日(影の国さいたま芸術劇場)
2 火	
3 水	MUSIC 埼玉会館ランチャタイム・コンサート 第5回 新日本フィルメンバーによるトロンボーン四重奏 開演 12:10 ※詳細は P.17 にて
4 木	
5 金	
6 土	
7 日	
8 月	臨時休館日(影の国さいたま芸術劇場)
9 火	
10 水	
11 木	
12 金	CINEMA 影の国シネマスタジオ ~ふたりの理髪師~ A:「胡同の理髪師」 B:「大統領の理髪師」 上映時間 12:45 A / 16:00 B / 19:00 A ※詳細は P.21 にて
13 土	CINEMA 影の国シネマスタジオ ~ふたりの理髪師~ A:「胡同の理髪師」 B:「大統領の理髪師」 上映時間 10:00 A / 12:45 B / 16:00 A / 19:00 B ※ 12:45 上映終了後、石子順氏によるアフタートークあり MUSIC メシアン生誕 100年記念特別企画 児玉 桃 メシアン・プロジェクト 2008 (第1回) レクチャー&コンサート「メシアンの世界への誘い」 開演 14:00 ※詳細は P.18 ~19 にて
14 日	CINEMA 影の国シネマスタジオ ~ふたりの理髪師~ A:「胡同の理髪師」 B:「大統領の理髪師」 上映時間 10:00 B / 12:45 A / 16:00 B PLAY 源氏語り五十四帖 第45回「総角2」 開演 14:00 ※詳細は P.22 にて
15 月祝	
16 火	臨時休館日(影の国さいたま芸術劇場)
17 水	
18 木	
19 金	
20 土	DANCE 勅使川原三郎「Here to Here」 開演 16:00 ※詳細は P.12 ~13 にて MUSIC 光の庭プロムナード・コンサート 秋はバロック~いろいろな形式で 開演 14:00 会場 = 影の国さいたま芸術劇場 情報プラザ 出演 = 田上麻里(オルガン) 西谷尚己(ヴィオラ・ダ・ガンバ) 曲目 = J.K. ケルル: かつこうのテーマによるカプリッチョ ほか ※入場無料
21 日	DANCE 勅使川原三郎「Here to Here」 開演 15:00
22 月	
23 火祝	
24 水	
25 木	
26 金	CINEMA 影の国シネマスタジオ 埼玉会館上映会 オペラ映画「リゴレット」 上映時間 10:00 / 13:00 / 16:00 / 19:00 会場 = 埼玉会館 小ホール ※詳細は P.22 にて
27 土	MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.6 アンドレイ・コロベニコフ 開演 14:00 ※詳細は P.22 にて
28 日	
29 月	
30 火	

3歳以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

ADVANCED TICKET SPECIAL

「日本昔ばなしのダンス」第3弾!
近藤良平率いるコンドルズ選抜メンバーと、個性派森下真樹の夢のタッグが実現!

3年目を迎える人気コンテンポラリー・ダンス・シリーズ「日本昔ばなしのダンス」。今年は老若男女に大人気の近藤良平が再登場する。シリーズ第1弾で近藤が振り付けた「ねずみのすもう」は、これまでに愛知、岩手を巡回。今年も名作誕生に大いに期待したい。対するは「昔ばなし」初登場の森下真樹。大胆不敵なユーモアのセンスが超一級品で、既に着々と秘策を練り上げている様子。異色最強タッグで臨む「昔ばなし」第3弾に乞うご期待!

「日本昔ばなしのダンス」 近藤良平 / 森下真樹
【日時】 10月25日(土)・26日(日) 各日開演13:00 / 16:00 【会場】 影の国さいたま芸術劇場 小ホール
【演目】 未定 【振付】 近藤良平 【出演】 コンドルズ選抜メンバー
【演目】 「うらしまたろう」 【振付】 森下真樹 【出演】 森下真樹 ほか
【チケット(税込)】 全席指定 大人(高校生以上):2,000円 子ども(3才以上中学生以下):1,000円
【発売日】 一般:7月26日(土) メンバーズ:7月19日(土)



前売りチケット発売情報(〜2008.9.15)

CINEMA 影の国シネマスタジオ
~ふたりの理髪師~
フロン
「胡同の理髪師」・「大統領の理髪師」
中国・北京の理髪師と韓国・孝子洞の理髪師。国の異なるふたりの理髪師の生き方をぜひご鑑賞ください。
チケット発売日 一般・メンバーズ:7月18日(金)
日時=9月12日(金) 12:45 A / 16:00 B / 19:00 A
13日(土) 10:00 A / 12:45 B / 16:00 A / 19:00 B
14日(日) 10:00 B / 12:45 A / 16:00 B
※9/13(土)12:45 上映終了後、石子順氏によるアフタートークあり
会場 = 影の国さいたま芸術劇場 映像ホール
A: 監督=ハスチヨロ 出演=チン・クイ チャン・ヤオシン ワン・ホンタオ ほか(2006年/中国/105分)
B: 監督=イム・チャンサン 出演=ソン・ガンホ ムン・ソリ リュ・スンズ ほか(2004年/韓国/116分)
料金=一般:前売1,000円 / 当日1,200円 小中高生:前売800円 / 当日1,000円
2作品セット券 一般:前売1,800円 / 当日2,100円 小中高生:前売1,500円 / 当日1,800円



MUSIC 埼玉会館ランチャタイム・コンサート
第6回 東響メンバーによる弦楽四重奏
チケット発売日
一般:7月26日(土) メンバーズ:7月19日(土) 詳細はP.17 にて

MUSIC 唐澤まゆ子&荘村清志 デュオ・リサイタル
ヨーロッパを中心に活躍するソプラノ/唐澤まゆ子とクラシックギターの名手荘村清志が奏する優雅なひととき。
チケット発売日
一般:7月26日(土) メンバーズ:7月19日(土)
日時=12月7日(日) 開演15:00
会場 = 影の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目 = マリー-アントワネット:それは私の恋人
パッパ=グノー:アヴェ・マリア タレガ:アルハンブラの想い出 ほか
料金=一般:3,000円 / 学生1,500円 メンバーズ:2,700円



PLAY 影の国さいたま寄席 四季彩亭
~立川志らく 独演会
秋の四季彩亭は、平成12年度影の国落語大賞受賞、映画にも造詣の深い立川志らくの独演会。どうぞお楽しみに。
チケット発売日
一般:7月27日(日) メンバーズ:7月20日(日)
日時=11月8日(土) 開演16:00
会場 = 影の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演 = 立川志らく ほか
料金=一般:3,000円 メンバーズ:2,700円 ゆうゆう割引(学生・65歳以上):2,000円



DANCE ナチョ・ドゥアト
スペイン国立ダンスカンパニー「ロミオとジュリエット」
チケット発売日
一般:7月26日(土) メンバーズ:7月19日(土) 詳細はP.14 ~15 にて

CINEMA 影の国シネマスタジオ 「パーク アンド ラブホテル」
ラブホテルの屋上に小さな公園が?! ファンタジックでほろりとさせるあたたかな物語です。
チケット発売日
一般・メンバーズ:8月8日(金)
日時=10月10日(金) 12:45 / 16:00 / 19:00
11日(土) 10:00 / 12:45 / 16:00 / 19:00
12日(日) 10:00 / 12:45 / 16:00
会場 = 影の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督=熊坂 出
出演 = リリイ 梶原ひかり ちはる 神農 幸 ほか(2007年/日本/111分)
料金=一般:前売1,000円 / 当日1,200円 小中高生:前売800円 / 当日1,000円



MUSIC 影の国さいたま芸術劇場ランチャタイム・コンサート
リコーダーQ(江崎浩司 rec. 高群輝夫 vc. 長久真実子 cem.)
チケット発売日
一般:9月6日(土) メンバーズ:8月30日(土) 詳細はP.17 にて

MUSIC 埼玉会館ニューイヤー・コンサート
ウィーン・シュトラウス・フェスティバル・オーケストラ
ベーター・グート cond.&vn. 鈴木慶江 sop. 水口 聡 ten.
2009年は、ウィーンの伝統を受け継ぐオーケストラの香り高い調べで華やく新年を!
チケット発売日
一般:9月6日(土) メンバーズ:8月30日(土)
日時=2009年1月17日(土) 開演14:00 会場 = 埼玉会館 大ホール
曲目 = レハール:メリー・ウィドウ・ワルツ J.シュトラウスII:美しく青きドナウ(予定) ほか
料金=一般:S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円/学生B席2,000円
メンバーズ:S席5,400円/A席4,500円/B席3,600円



PLAY 源氏語り五十四帖
三田村雅子さんの解説と幸田弘子さんの朗読で好評の「源氏語り五十四帖」。物語は、いよいよ宇治十帖の佳境へとむかいます。
チケット発売日
一般:9月14日(日) メンバーズ:9月6日(土)
日時=第46回「早蕨」12月7日(日)、第47回「宿木」2009年1月11日(日)、
第48回「宿木」2009年3月15日(日) 各日開演14:00
会場 = 影の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演 = 幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:フェリス学院大学教授)
料金=全席指定 1回券2,500円 第46~48回連続券6,600円



【チケットの購入は】
財団チケットセンター 048-858-5511 10:00 ~ 19:00 (休館日を除く)
【窓口営業時間】 ●影の国さいたま芸術劇場 10:00 ~ 19:00 (休館日を除く) ●埼玉会館 10:00 ~ 19:00 (休館日を除く) ●熊谷会館 10:00 ~ 17:00 (休館日を除く)
●インターネット販売及び他購入に関しては、財団ホームページ <http://www.saf.or.jp/> まで

発売中全公演情報 (7.27～)

3歳以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。

MUSIC

熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラバンド!

日時=7月27日(日) 開演15:00 会場=熊谷会館
 出演=飯森範親(指揮) 朝岡 聡(ナビゲーター) 上野通明(チェロ) 東京交響楽団(管弦楽)
 曲目=久石 譲:さんぽ(映画「となりのトトロ」より)
 ドヴォルジャーク:交響曲第9番 ホ短調 作品95「新世界から」より 第4楽章 ほか
 料金=S席 一般:大人4,000円 子ども(3歳以上中学生以下)2,000円
 親子セット(大人1枚+子ども1枚)5,500円 メンバーズ:大人3,600円
 A席 一般:大人3,500円 子ども(3歳以上中学生以下)1,500円
 親子セット(大人1枚+子ども1枚)4,500円 メンバーズ:大人3,150円
 ※子ども券、親子セット券は、熊谷会館・彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館にお申込みください。
 ※3歳未満のお子さんの入場はご遠慮ください。

新日本フィルハーモニー交響楽団

詳細はP.16～17にて

埼玉会館ランチタイム・コンサート

第5回 新日本フィルメンバーによるトロンボーン四重奏

詳細はP.17にて

メシアン生誕100年記念特別企画

児玉 桃 メシアン・プロジェクト2008

(第1回)レクチャー&コンサート

「メシアンの世界への誘い」

詳細はP.18～19にて

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.6 アンドレイ・コロベイニコフ

詳細は下枠にて

ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団

日時=10月4日(土) 開演17:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 出演=ミヒャエル・ハーゼ(フルート) アンドレアス・ヴィットマン(オーボエ)
 ヴァルター・ザイファルト(クラリネット) ファーガス・マックウィリアム(ホルン)
 ヘニング・トローク(ファゴット)
 曲目=モーツァルト(ハーゼ編曲):自動オルガンのための幻想曲 短調 KV608
 ベートーヴェン(ハーゼ編曲):六重奏曲 変ホ長調 作品71 ほか
 料金=一般:4,500円/学生1,500円 メンバーズ:4,050円

メシアン生誕100年記念特別企画

児玉 桃 メシアン・プロジェクト2008

(第3回)児玉麻里&桃 ピアノ・デュオ

「《アーメンの幻影》とメシアンが愛した作曲家たち」

詳細はP.18～19にて

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.7 北村朋幹

日時=12月13日(土) 開演14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 曲目=ショパン:バラード第1番 ト短調 作品23
 シューマン:クライスレリアーナ 作品16 ほか
 料金=一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円 メンバーズ:S席3,150円

SPECIAL PICK UP

ロシアの鬼才、アンドレイ・コロベイニコフ
 ピアノ・エトワール・シリーズに遂に登場!

30歳以下のピアニストのなかでも、特に今後の活躍が期待される気鋭の「今弾きたい曲」を聴くシリーズ。今回は世界で注目を集めているロシアの鬼才を迎えます。演奏曲は「母国ロシアの文化を是非聴いて貰いたい」というムソルグスキーの大曲と「1曲の中で人生の全てを体験し、吸い込まれてしまいうる」というシューベルト最後のソナタ。一音一音に全身全霊を込める真摯な演奏の繊細でかつ豊かな世界にどうぞご期待下さい。

【日時】9月27日(土) 開演14:00
 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 【曲目】ムソルグスキー:組曲《展覧会の絵》 シューベルト:ピアノ・ソナタ第21番 変ロ長調 D960
 【チケット(税込)】好評発売中
 一般:S席3,500円/A席2,500円/学生A席1,000円 メンバーズ:S席3,150円



今回で7度目の来日。「自分に出来る最高の演奏をしますので楽しみにして下さい。」

謹告 本年11月に予定されていたマレイ・ペライア ピアノ・リサイタルは都合により日本ツアーが中止となりました。その結果、当劇場公演も中止となりました。何卒ご了承下さい。

PLAY

彩の国ファミリーシアター 音楽劇『ガラスの仮面』

詳細はP.4～7にて

源氏語り五十四帖 第45回「総角2」

日時=9月14日(日) 開演14:00
 会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 出演=幸田弘子(朗読) 三田村雅子(解説:フェリス女学院大学教授)
 料金=全席指定 2,500円

彩の国シェイクスピア・シリーズ第20弾 『から騒ぎ』

詳細はP.10～11にて

DANCE

勅使川原三郎『Here to Here』

詳細はP.12～13にて

CINEMA

彩の国シネマスタジオ『結婚しようよ』

日時=8月8日(金) 12:50/16:20/19:20
 9日(土) 10:00/12:50/16:20/19:20
 10日(日) 10:00/12:50/16:20

※8/8(金)、8/10(日)12:50上映回終了後、アコースティックギター・ミニライブあり
 ※8/9(土)12:50上映回終了後、石子順氏によるアフタートークあり
 会場=彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール 監督=佐々部清
 出演=三宅裕司 真野響子 藤澤恵麻 AYAKO(中ノ森BAND) ほか(2008年/日本/120分)
 料金=一般:前売1,000円/当日1,200円 小中高生:前売800円/当日1,000円

彩の国シネマスタジオ 埼玉会館上映会 オペラ映画『リゴレット』

日時=9月26日(金) 10:00/13:00/16:00/19:00
 会場=埼玉会館 小ホール 作曲=ジュゼッペ・ヴェルディ
 監督=ジャン=ピエール・ポネル
 出演=ルチアーノ・パヴァロッティ(テノール) イングヴァール・ヴィクセル(バリトン)
 エディタ・グルベローヴァ(ソプラノ) ほか
 (1982年/イタリア/117分) イタリア語版(日本語字幕あり)
 料金=一般:前売2,300円/当日2,500円 メンバーズ:2,000円

公演詳細は、財団ホームページ

<http://www.saf.or.jp/>にて

Information インフォメーション

彩の国さいたま芸術劇場内の
 舞台芸術資料室をご存知ですか?

舞台芸術に、さらに広く、深く触れていただける場所、それが舞台芸術資料室です。
 ここには、現在、演劇・ダンス・音楽・古典芸能・映画・美術などに関する、書籍約10,000冊、CD約11,000枚、LD約1,000枚、DVD約300枚、ビデオ約1,300本が所蔵され、すべて室内で視聴、閲覧することができます。
 特に、シェイクスピア関連資料は、かなりの充実度! 入門書や専門書はもちろん、映像資料ではイギリスBBC放送の偉業とも言える、シェイクスピア全37作品の映像化を実現させたビデオ・ライブラリー「シェイクスピア全集」も全巻揃っています。
 専門的な研究でのご利用はもちろん、劇場にお越しの際はどうぞお気軽にお立ち寄りください。そこで開いたページ、聴いた音楽、観た映像から、舞台芸術への興味・関心の扉がぐっと大きく開かれるかも! 当財団ホームページで所蔵資料の検索が出来るようになりました。



※当劇場で開催された公演プログラムはすべてご覧いただけるほか、視聴可能な公演記録映像もございます。

- 開室時間 9:00～18:00
- 休業日 毎月第1・3・5月曜 及び 劇場休館日

(資料の閲覧や視聴は、当資料室内に限りです。)

information インフォメーション

彩の国さいたま芸術劇場 企画展

『はじめてのガラスの仮面』

【日時】7月18日(金)～8月27日(木)
 9:00～22:00(休館日は除く)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 ガレリア
 【料金】入場無料

『ガラスの仮面』は、女優を夢見る少女[北島マヤ]と芸能一家のサラブレッドとして育った若きスター[姫川亜弓]が、演劇界の幻の名作と言われる『紅天女』の主役の座を巡り、さまざまな困難を乗り越え成長して行く物語です。



演劇を題材としたコミックの金字塔として、世代を超えて多くのファンを持つだけでなく、2度のテレビアニメ化、テレビドラマ化など、まさに“国民的”と呼ぶにふさわしい人気を誇る作品です。

今回、8月の本作の上演にあわせ、登場人物やストーリー、劇中劇として扱われた作品の紹介など、「ガラスの仮面」を読んだことがない方にも本作を楽しんでいただけるよう、『はじめてのガラスの仮面』と題した企画展を行います。北島マヤや姫川亜弓たちのプロフィール、劇中劇(「奇跡の人」、「若草物語」など)が実際に上演された際のポスター、登場人物の相關図など、豊富なビジュアルとともに『ガラスの仮面』の世界をご紹介します。ぜひご覧ください。

●問合せ 彩の国さいたま芸術劇場 tel.048-858-5511

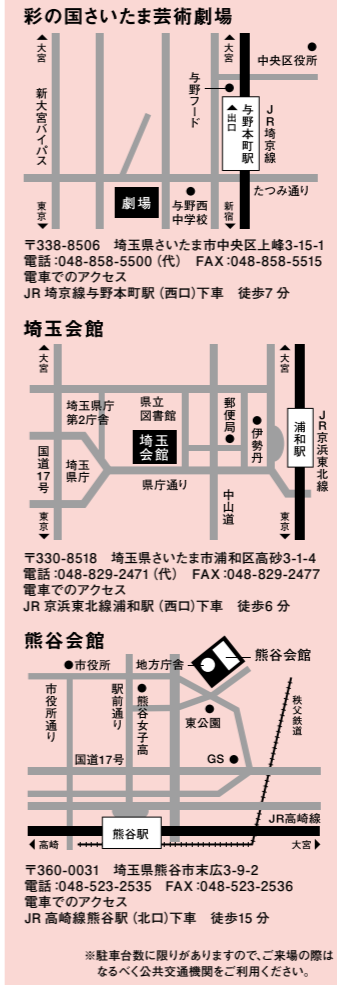
■ サポーター会員 H20.6.15現在 / 一部未掲載

- (株)与野フードセンター / (株)亀屋 / 武州ガス(株)
- (株)エフテック / (株)松本商会 / (有)香山壽夫建築研究所
- 埼玉新聞社 / (株)テレビ埼玉ミュージック / 金井大道具(株)
- 埼玉りそな銀行 / (株)パシフィックアートセンター
- アサヒ印刷(株) / FM NACK5 / 東京電力(株)埼玉支店
- 東京ガス(株)埼玉支店 / 埼玉県信用農業協同組合連合会
- カヤバ システム マシナリー (株) / (株)タムロン
- (株)オメダム / (株)十万石ふくさや / 森平舞台機構(株)
- 日本データコム(株) / (株)ビルメン / 東芝ライテック(株)
- 埼玉トヨタ自動車(株) / (有)齋賀設計工務
- クレディ・アグリコル アセットマネジメント(株)
- ソシエテジェネラルアセットマネジメント(株)
- ゲレツ・ジャパン・スズゼン(株) / (株)武蔵野銀行
- 浦和ロイヤルパインズホテル / (株)アルピーノ
- 国際照明(株) / (株)松永建設 / (株)サイサン 会長 川本彦彦
- 三国 コカ・コーラ ボトリング (株)
- あいおい損害保険(株)埼玉営業部 / (株)ショーモン
- 埼玉スバル自動車(株) / (株)木下フレンド
- (株)東玉 / 桶本興業(株) / (株)佐伯紙工所
- (株)太陽商工 / (株)しまむら / アイジャパン(株)
- (株)ウム・ヴェルト・ジャパン / (有)六辻ゴルフセンター
- (株)オリエント / 不動開発(株) / (株)明成
- ホッカイエムアイシー(株) / 埼玉縣信用金庫 / (有)武蔵興産
- (株)栗原運輸 / (株)エコ計画 / 彩の国SPグループ
- (有)プラネット / (株)イヤホンガイド / トキタ種苗(株)
- 関東自動車(株) / 日本ピストンリング(株) / (株)クマクラ
- (株)デサン / 亀井産業(株) / (株)グリーン企画社
- (有)中島運輸 / (株)国際ビジネス研究所
- セントラル自動車技研(株) / (株)アズマン
- 太平洋セメント(株) / (株)ビー・アンド・イー・ディレクションズ
- 朝日新聞 仲光堂さいたま販売(株) / 丸美屋食品工業(株)
- マツヤハウジング(株) / 日立キャピタル(株)
- ポラスグループ / 伊田テクノス(株)
- (株)リゾン / ひがし歯科 / 埼玉建興(株)
- (株)日産サテリオ埼玉 / 埼玉トヨペット(株)
- (株)あいおい保険総合サービス / 公認会計士 宮原敏夫事務所
- (株)価値総合研究所 / (株)埼玉交通 / (株)アライヘルメット
- 西武文理大学 / (株)東和銀行 / 医療法人 顕正会 蓮田病院
- (株)協同商事コエドブルワリー / (株)ウイズネット
- サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株)
- 三光ソフラン(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株)
- ヤマハサウンドテック(株)

「サポーター会員」入会のご案内

【入会による特典】劇場内サポーターボードへの会員名掲載・「埼玉アーツシアター通信」やホームページへの会員名掲載・劇場内広報用パンフレットスタンドの利用・財団主催公演へのご招待 ほか
 【年会費】1口10万円(有効期限は、入会月から1年間となります。)
 【問合せ先】(財)埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課
 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

ACCESS MAP



きもの姿で舞台に立つようになり、半世紀が過ぎました。舞台装束も小道具もない朗読では、きものが唯一のセットともいえます。特に、平安の世界にお客さまをいたなう『源氏物語』では、一帖一帖、少しづつ物語に沿うように……と、きもの選びは、大きな悩みであり楽しみでもあります。

女君の心情や美しい自然などが豊かな日本語でつづられる、源氏物語の原文のどの部分を装いのテーマにするのか。毎回、一緒に考えてくれる娘と相談し、ときには二着選んでおいで本番直前の気分を決めたりもします。また、ショーウィンドウに飾られたきものに「源氏のおの巻にびつたり!」と一目惚れし、何度も通った後で思い切って決めたことも。高価な買い物でしたが、それをまとうことによって私自身とお客さまが源氏の世界に入れたら、きものにとっても幸せなことではと思うのです。

以前は、亡き母や祖母がいつも私のきものを選び、着せてくれました。今もきものを着ると、母の美しい着姿が浮かび、同じようにきれいに着こなしたい、振舞いたいと、自然に背筋が伸びます。着付けに使う紐や伊達締めは、母が昔のきものから手作りしたものが現役で、それを身につけることでも、母を身近に感じています。

女性のさまざまな想いを表現し、また手描き友禅や手織物など、日本の芸術の粋でもあるきもの。その文化を大事にして、舞台にお客さまと共有して楽しめるといふのは、とても素敵なことだと思います。

Artist Diary

きもの姿で“語る”こと

6月7日土曜日

文 = 幸田弘子

イラスト = 田中修一郎

